行りし逸抱えうそし羽合せ様遣て又ハ場あしき所にて数度羽合
鷹に辛苦致しもまたハ始終鷹あさハりになり漸く羽なり悪し
くなりゆくもの也又ハその仕始して鷹つかひ悪し

片時大鷹馴け様の事
これハ懐鷹の附訓けとして掛個し御年掛無之
附訓くるをいふなり

片搦大鷹捕しにかゝりて足革をさして鞢きさ通据訓けに鑑も
ゆかつ肉相及ひ羽毛の光澤なきにいたるまてよろしく餌をつけて
相計へし時の中にふるひし旅もえつさし鷹なるハ二枚羽も
衆訓させ三致ひより訓けにかゝへし肉かいなく毛の光澤あ
きところあるなくし病のあるなり病しゐたへるも病ある
鷹となりていままもして餌身肉調ひよくへし一定中に御鷹兄